

令和3年度 全日本私立幼稚園連合会
第35回東北地区私立幼稚園教員研修大会

第4分科会

自然環境を生かした
協同的な遊びと学びの実践

発表と協議から学んだこと
さらに深めたいこと

大宮勇雄（元福島大学）

はじめに

大会テーマ「新しい時代をのびやかに生きる」に
込められた問い、そして希望

●私たちは**どんな時代を**生きているのか？

私たちは、**これまでと同じでいいのか？**

★「持続可能性」が目標となる時代＝世界規模の危機

気候危機：世界中の若者が声をあげている

経済危機：あまりにも不公平

民主主義の危機：民の声とかけ離れた政治

★「転換期」はたしか…

●子どもたちに**どんな世界を**手渡すのか？

子どもたちに何を**価値あるもの**として語り、育むのか？

★「注文」が多すぎる大人たち：**子ども**の視点の薄さ

たとえば「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

●「新しく」「のびやかに」に込められた**希望**

★大人にとって「子ども」とは

- ・「未来＝大人が**残した課題**」を丸投げするのは身勝手
- ・子どもに「未来＝**希望**」を託したくなるのはなぜ？

★子どもがいるから、大人が元気でいられる

- ・震災の時、子どもに励まされた
- ・「意味」への根本的な問い
- ・「もう一つの可能性の探求」

★**探究心と想像力に富んだ「新しいなかま」**

子どもたちとともに学び続けて、新たな世界を創りだそう

1 自然とのかかわり方はどう育つ

1) 「心動かす出会い」が注目される背景

- 「**学び**」への注目

生涯にわたる学び、学校外の学び、「教え」以上の「学び」

- 学びを生み出し、深めるもの（学ぶ力）とは？

知識やスキルだけではない

本気（真剣、熱心）になったとき、深く、継続的に学ぶ

- 「本気」⇒非-認知的なもの（「能力」ではなく「**感情**」）

気持ちはその子自身のもの

外からコントロールできない

2) 関心と熱中：学ぶ力(1)

● **関心**：「おや、なんだろう！」

熱中：継続する関心、笑顔、集中

● **その子の視点に立った時**、関心が見えてくる

＊ 3歳児episode「色水づくり」＝「意味の探求」

⇒ **あらかじめ「関心」を計画するのは難しい**

● **継続する関心（＝熱中）が導く深い学び**

＊ 4歳児episode「砂のかまくら」＝時間を超えつながら関心

＊ 4歳児episode「色水遊び」＝継続する学び

⇒ **学びを長期間にわたってとらえることが必要**

3) 関心と熱中を繰り返し、時間をかけて育つ

事例1 「ちょうちょ、倒れてた」

4月13日 小さな穴を見つけ、枝でほじくる。ゾウリムシが出てきて保育士がKの手に乗せてみると、「こわい」と**怖がる**。

6月4日 ザリガニ探しをする。ザリガニを捕まえて目の前で見せると、はじめは怖がっているが、お友だちが触っているのを見て、背中を**ちょんちょん**と触ってみる。

6月19日 玉川上水にて。ミミズを見つける。Kは**大喜び**で片手に一匹ずつブラーンと持ち、「見て！」と見せに来る。手のひらを這っていこうが**平気**な様子。

6月26日 小さなザリガニを見つける。**怖がることなく**手でつかむことができるようになる。

7月8日 大きなザリガニを保育士が捕まえる。Kは**じーっと見て**いたが、ザリガニがハサミを上に向けて威嚇している姿を見て「怖い」と、保育士のエプロンをつかんでいる。（この時期、クラスにある生き物の本を読んで比べてみたり、**熱心に見ていた**）

7月23日 道にアゲハチョウが死んでいるのを見つける。Kは「**ちょうちょ、倒れてる！**」と手で触ったり、「動かないね」と**しゃがみ込んで**見ている。そのことが印象的だったようで、道ですれ違うおばあちゃんたちにも「ちょうちょ、倒れていたよ」と**話しかけていた**。

8月28日 少し弱っているセミを見つける。怖がることなく手で捕まえ、鳴く様子を見たり、葉っぱなどいろいろなところに乗せて様子を見ている。（**いろんな状態のセミに触れ、観察していた**）

自然とのかかわり方は時間をかけて、 その子らしく、発達する(学ばれる)

五感を働かせる

見るのもさわるのも怖い

こわごわ触ってみる／平気で触る／しっかりつかむ

じーっと見る／比べて見る／観察する／いろいろな視点から見る

知る

生き物の形や機能／生命の躍動／「動く＝生きている」

探究する

動かないだけか、死んでいるか

表現する

こわい／見てー／こわい／ちょうちょ、倒れてる／倒れてた

4) むずかしいことに立ち向かう：学ぶ力（2）

●どんなささいなことでも、**難しいことに立ち向かう**ことは
価値のある学び

- ・こわごわ見る、ちょんちょんとさわってみる
- ・答えがわからないことに立ち向かう⇒探究

動かないかな、元気にならないかな…まるで「科学者」

●**その子の視点に立って**、難しいことに立ち向かう姿をとらえ
励ます

「かまくらみたいに、ちいさくなっちゃうかも」

「色が変わった、なぜかな」…⇒学びは地下茎で咲く花のよう

5) 協同する：学ぶ力（3）

●人間の**学びの特質**

「一人でできる」の前に「他者ととともにできる」

= 「**最近接の発達領域**」（ヴィゴツキー）

「他者の考えや感情を自分のものとして使うことができる」

●**対話**の力：言葉を使ったやりとりだけでなく、

身体や五感を使ったやりとりも

- ・ Kくんの挑戦：友だちの姿、歓声、保育者とのやりとり

* **5歳児episode不思議な石**

他者の声を聴いて、さまざまな視点から観察し考える

●協同する力（協同的に学ぶ力）

コミュニケーション（自分の考えや気持ちを表現する）

責任を担う（相手の立場に立って考えたり行動したりする）

- 学んだことを**表現**（コミュニケーション）することで、
学びが意識され、学びを前に進ようとする

＊ 5 歳児episode これってなんだろう？

- 友だちに目が向く：子ども同士助け合う、教え合う

＊ 5 歳児episode 桜の花を咲かせましょう

6) 「心が動く」ときに「学ぶ力」が育つ

- **学ぶ力**
 - ① 関心を持つ、熱中する
 - ② 難しいことに立ち向かう（挑戦と探究）
 - ③ 他者ととともにする
 - ・ コミュニケーション（表現）する
 - ・ 相手の立場に立つ
- 子どもが**自らやろうとする**ことに大きな価値がある

2 自然とのかかわりを育てる

1) 「まとめ」から

なんだかおもしろい
ちょっとおもしろい
やってみたい
楽しいね

関心と熱中

楽しそう仲間に入れて
一緒にやろうよ
一緒にできて楽しいね
不思議だね

協同的な学び
＝対話

なんで？ どうして？
〇〇だからじゃない？
今度は〇〇してみよう
よ？
〇〇したらどうかな？

困難への挑戦
＝探究

2) 保育者のかかわり・援助を考える

●目標はあくまで目安

子どもの関心や熱中は実に多様であり、
挑戦は、その子にとってのむずかしさの中にあり、
他者との関係は計画することが難しい

●学びは長期的

長期にわたる学びをとらえる工夫を
記録は学びを育てるためにやるもの（学びのとらえ方が大事）

●学びは協同的

子ども主導の対話が学びを力づける
非-言語の対話、つまり表現や記録の活用を

事例2 ダンゴ虫に心臓はあるか？

サオリのお母さんからの夏休みの生活表に、「何枚も切り取っていた新聞の記事を見て、娘のたつての希望で訪れた国立科学博物館での大哺乳類展ではマッコウクジラがダイオウイカを食べるシーンの映像の迫力に圧倒され10分くらいその場を離れませんでした。また、もともと娘は人間の体の器官に興味を持ち始めていたのですが、鯨の模型を見て自分の体と同じもの（耳・胃・心臓・腸など）が鯨の中にもあることが、とても驚きだったようで真剣に模型を見つめていました。

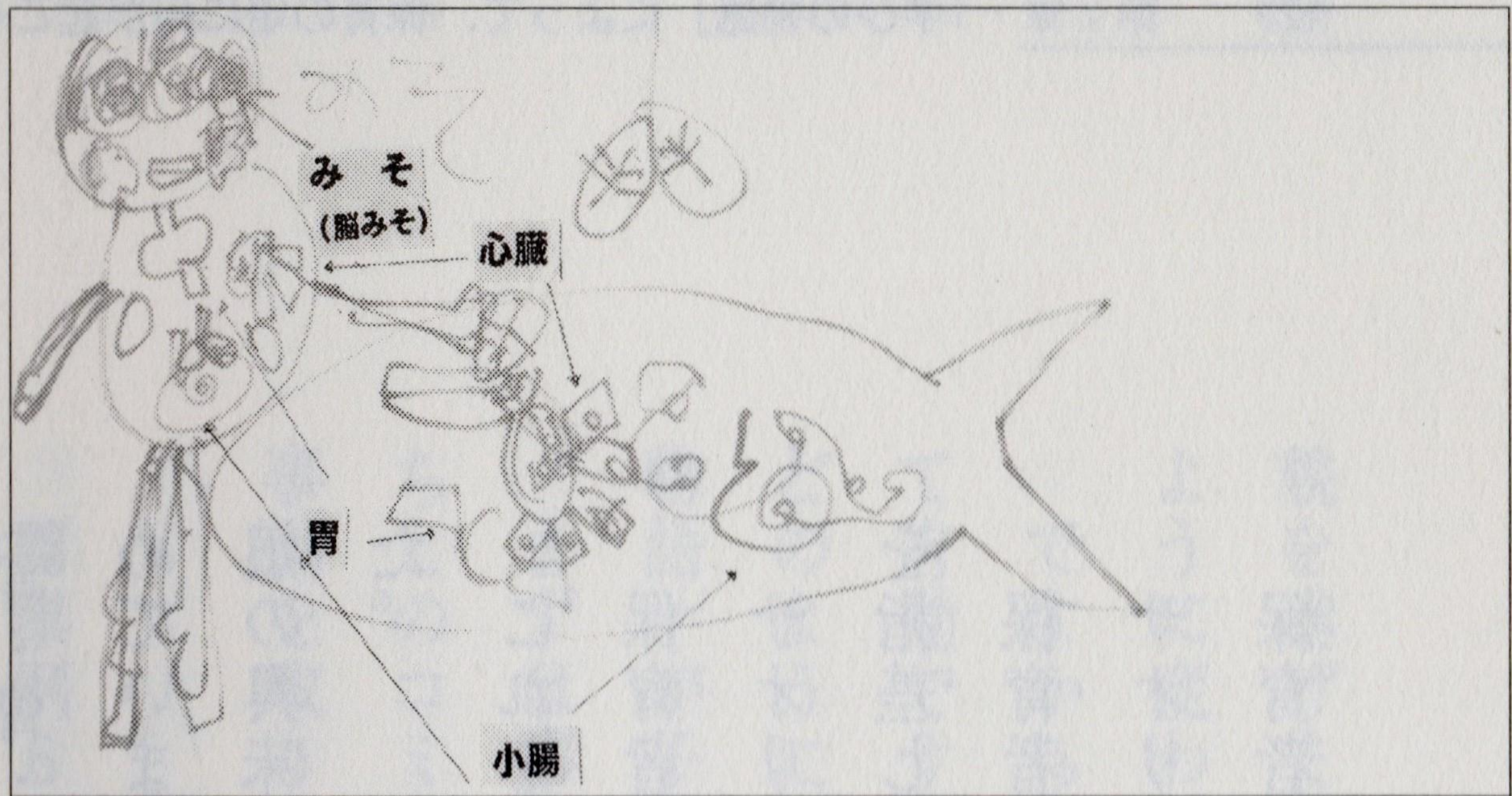
その後も人に鯨の話をするほどだったので、よほど心に残ったのだと思います。娘の興味のあることが深まり、広がっていく手助けができればいいと思います」と書かれていた。

これを読んだ翌日、遊びの中で絵を描いていたサオりに声をかけてみた。

保育者「サオリちゃんは、夏休み東京に行ったの？」サオリ「うん、サンリオピューロランドに行ったの、このシナモンロールがいたの」と絵本を指差し、絵に描いていた。

保育者「そう、他にもどこかに行ったの？」サオリ「クジラがイカ食べるの、見たの！」保育者「先生、わからないから絵に描いて教えて！」サオリ「いいよ！」

しばらくしてサオリは絵に描いて持ってきた。そこにはクジラの中に心臓、胃などが描かれ、隣に描かれた人間の女の子の体の中にも同じものが描かれていた。保育者「すごいね、おんなじなんだね、クジラも人も！」サオリはとても嬉しそうにうなずいた。



翌日、みんなの前で夏休みの経験を絵を見せながら話すようにしたところ、サオリは自分の番になるのを待ち構えていたようで、呼ばれる前から準備していた。

サオリ「あのね、クジラにもサオリとおんなじ心臓があるの。胃も…」と恥ずかしそうに発表していた。他の子も「心臓」という言葉に反応して「熊にもあるよ」「鳥にも！」と口々に反応していた。

保育者が「ブロックには？」と問いかけると、「ないよ。だっ
ておもちゃだもの」「動物にしかないんだよ」と他の幼児が答えた。サオリは黙って聞いていた。

翌日のお弁当の時に「ダンゴムシには心臓があるか？」の話題になった時、サオリだけが「ない！」と言い張り、他の幼児は「あるよ！かたつむりだって！」と言ったがサオリは「ない、鳥もない」と言っていた。